

取締役メッセージ

取締役執行役員専務
八代 倫明



資本コストを意識した経営の浸透と定着

当社は中期経営計画(24-26)において、資本効率を重視した経営を進めるため、事業ポートフォリオの見直しや、資本コストを踏まえた投資判断に取り組んでいます。

当社の製品は1台あたり数億円から10億円を超えるものも多く、その特性上、運転資本が大きくなりやすい傾向があります。また、景気変動の影響を受けやすい事業であるため、急な環境変化にも耐える資金確保が重要です。このような事業特性を踏まえ、当社は「積極的な事業展開による成長」と「健全な財務体質の維持」を両立し、本業における収益力の最大化を目指しています。そのための指標として、ROICを重視しています。

喫緊の課題である欧州事業の立て直しについては、2025年6月末にTDGバラシャイド工場を売却し、生産をドイツ・日本へ移管、最適化を進めています。今後は、新機種・新製品の投入による収益力の向上に加え、在庫の圧縮や余剰資産の整理、有利子負債の削減を進めることで、ROICの改善を図っていきます。

また、2026年4月には、原価管理の徹底と、ROIC経営をグループ全体で推進するための専門組織を設置しました。さらに、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上により、PBR1.0倍以上の達成・維持を目指します。

当社グループでは、事業活動に必要な資金を安定的に確保するため、内部資金を基本としつつ、金融機関からの借入や社債発行なども組み合わせ、資金調達を行っています。自己資本比率やD/Eレシオなどの財務健全性指標や、ROE・ROICなどの収益性指標を注視するとともに、調達コストや金利変動リスクも踏まえて、最適な調達方法を選択しています。また、ミニマムキャッシュ運営を柱とする資金管理を行い、グループ全体の資金効率の向上に努めています。加えて、金融機関とのコミットメントライン契約や十分な現預金の確保により、資金の流動性も確保しています。

今後も持続的な成長と企業価値向上に向け、積極的な投資と安定的な経営・財務基盤の確保を両立していきます。また、不測の事態に備えながら、引き続き十分な資金の流動性を維持していきます。

キャッシュ・アロケーションと株主還元

当社は、事業活動で得たキャッシュについて、将来の成長に向けた前向き投資と安定した経営基盤の維持に優先的に配分し、余剰資金は継続的に株主の皆さまへ還元していく方針としています。

中期経営計画(24-26)は適宜見直しを行っていますが、現在は、手元現預金と未使用の借入枠を合わせて約1,000億円を確保しており、これに加えて営業キャッシュフローや資産の効率化により400億円を創出する見込みです。また、M&Aや米国の関税影響への対応に備え、600億円を財務面で確保しており、あわせて約2,000億円の資金計画としています。これらを活用し、今後も成長に向けた積極的な投資を進めていきます。

配当については、当社の事業が市場環境の変動を受けやすい特性を持つことから、これまで一定の配当性向の目安は設けず、業績と経営状況を総合的に考慮しながら安定的な配当を行ってきました。一方で、中計(24-26)では、株主還元を重要な経営課題の一つと位置づけ、「配当性向30%を目安に、将来の事業戦略や経営環境を踏まえながら安定的に配当を実施する」ことを基本方針としています。こうした方針のもと、2025年度の配当は、期末配当金を1株あたり26円、中間配当金18円と合わせて年間では前期比21円増となる1株44円(配当性向30.4%)としました。

当社は、「Reaching new heights」というスローガンのもと、株主の皆さまとともにさらなる成長を目指してまいります。今後とも、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

